

事務事業分析シート（平成30年度）

No1

事務事業コード	06-04-03	戦略プラン	<input checked="" type="radio"/> 協働 <input type="radio"/> 業務 <input type="radio"/> 財務 <input type="radio"/> 人事					
事務事業名	産業観光推進事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	石崎			
		担当者名	木村	内線	461			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（30年度）	01-02-01	産業観光推進事業						
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業 (<input type="radio"/> 30年度 <input type="radio"/> 29年度)		<input type="radio"/> 建設事業 <input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業					
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成	14年度	根拠	荒川区モノづくり見学・体験スポット整備支援事業要綱				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準	計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画					
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	荒川区の産業技術や伝統工芸技術、区内で製造・販売されている優れた商品の紹介とPR、そしてモノづくり見学・体験スポットを通じて、モノづくりの街あらかわのイメージアップと産業観光を推進する。							
対象者等	商品の製造、販売事業者 区民、区外の人々及び来訪者							
内容	【モノづくり見学・体験スポット整備支援事業】 工房等を一般公開する者をスポット（以下、「モノスポ」）として認定し、必要に応じて改修等の費用を補助。2/3補助(上限 100万円)うち、1/2は都補助あり（29年度認定2件（累計31件）内訳：認定38件、廃止・休止7件）。 【あらかわモノスポ】 区外にて行うモノスポPRイベント。平成23年度より年1回。 【モノスポツアー】 モノスポを公用車で巡るツアー。平成27年度より、年10コース程度。 【荒川ブランドPRイベント】 区外にて行う荒川区伝統工芸職人・荒川マイスターのPRイベント ・「荒川ブランド」商品を紹介する冊子の作成・配布 ・観光PRコーナーの設置（おすすめ品の販売等）あらかわの伝統技術展等10ヶ所（29年度実績）							
経過	平成19年度 モノづくり見学・体験スポット整備支援事業開始 平成20年度 ①都電ウオーラリーを分離し、単独事業へ。 ②荒川ブランドセールスプロモーション事業を統合。 ③伝統技術展を経営支援課へ移管。 平成23年度 「駅からハイキング関連事業補助」経費を観光イベント助成へ組み替え 【「荒川ブランド」紹介冊子の内容】 ①「荒川のおすすめ品 区民が選んだおみやげ編Part1」平成17年度発行 ②「伝統工芸品・荒川マイスター製品編」平成18・20・22・25・28年度改訂 （伝統工芸品45商品/49名＋荒川マイスター製品22商品/22名＋リストのみ17名＝計67商品/88名） ※同一屋号の方は連名にて掲載するため、商品数と人数が異なる場合がある。							
必要性	モノづくりの街荒川の地域資源を活かし産業観光を推進することで、地域産業の活性化を促進するために必要である。							
実施方法	（ <input type="radio"/> 2一部委託 ） （ 直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員 ）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			27年度	28年度	29年度	30年度見込み		目標値(38年度)
	①	イベント会場での実演・展示・販売等実施件数	14	11	10	11	15	
	②	モノづくり見学・体験スポットの件数	30	30	31	32	50	数値は累計
③	モノづくり見学・体験スポットの年間来訪者数	2363	15548	18936	20000	20000	27年度認定の事業者により、28年度以降、来訪者数が増加。	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
30年度	31年度							
推進	推進	モノづくりのまち荒川を区内外に向け、広く周知するため、モノづくり見学・体験スポットの拡大とPRの充実を推進していく。						

予算・決算額の推移		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額		5,422	5,010	4,776	5,560	6,273	5,361	7,204
決算額(30年度は見込み)		2,683	4,393	3,706	3,016	4,312	2,877	7,204
実績の推移		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事項名(30年度は見込み)								
PR事業(回)		15	14	17	14	11	10	11
内、ブランドPRイベント(回)		11	12	14	11	8	7	8
商品紹介冊子作成(部)		—	25,000	—	—	25,000	—	—
モノづくり見学体験スポット		1	7	3	4	3	2	2
予算・決算の内訳								
平成28年度(決算)			平成29年度(決算)			平成30年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報償費	観光振興イベント出店者報償費ほか	61	報償費	観光振興イベント報償費ほか	62	報償費	観光振興イベント報償費ほか	140
旅費	観光振興イベント出張旅費(釜石市)	109	旅費	観光振興イベント報償費ほか	164	旅費	観光振興イベント報償費ほか	109
需用費	荒川ブランドPR用消耗品	33	需用費	荒川ブランドPR用消耗品	967	需用費	荒川ブランドPR用消耗品	1,177
役務費	行事保険(モノスポツアー)	2	役務費	行事保険(モノスポツアー)	2	役務費	荒川ブランドPRイベント運送契約	133
委託料	イベント会場設営費ほか	3,207	委託料	イベント会場設営費ほか	1,055	委託料	イベント会場設営費ほか	2,589
使用料等	あらかわモノスポ2016会場使用料	208	使用料等	あらかわモノスポ2017使用料	209	使用料等	あらかわモノスポ2018使用料	1,056
負担金補助等	モノスポ整備補助金	692	負担金補助等	モノスポ整備補助金	421	負担金補助等	モノスポ整備補助金	2,000

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目		28年度	29年度	差額	行政収入	勘定科目		28年度	29年度	差額
	給与関係費		9,647	8,073	▲1,574		地方税		0	0	0
物件費		3,557	2,393	▲1,164	国庫支出金		0	0	0		
維持補修費		0	0	0	都支出金		1,604	1,028	▲576		
扶助費		0	0	0	分担金及び負担金		0	0	0		
補助費等		755	484	▲271	使用料及び手数料		0	0	0		
減価償却費		0	0	0	その他		0	0	0		
不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	0	0	行政収入合計(a)		1,604	1,028	▲576		
賞与・退職給与引当金繰入額		513	445	▲68	行政収支差額(a)-(b)=(c)		▲12,868	▲10,367	2,501		
その他行政費用		0	0	0	金融収支差額(d)		0	0	0		
行政費用合計(b)		14,472	11,395	▲3,077	通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲12,868	▲10,367	2,501		
特別費用(g)		0	0	0	特別収入(f)		0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		▲12,868	▲10,367	2,501		

備考 行政費用では給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としてはイベント会場設営費として499,932円、イベント会場使用料として208,440円がかかっている。行政収入では「東京の多様性を活かした観光まちづくり推進事業補助金」として、1,028,000円の収入がある。

- 問題点・課題
- ①モノスポ数が31ヶ所に増え、来訪者数・客層・当事業への関わり方等様々な面でスポットごとの差が広がっている。各スポットの特性を考慮した上で、モノスポ全体として一層のPRを行う必要がある。
 - ②モノスポとして認定し得る製造業者が飽和状態にあるため、スポットを拡充する手段を検討する必要がある。
 - ③外国人観光客を受け入れることができる体制整備を行う必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成29年度に取り組む具体的な改善内容	平成29年度に実施した改善内容および評価	平成30年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	外国人向けツアーの開催について検討する。	運営委託を検討するため、イベント運営会社と打ち合わせを行い、課題を整理した。	外国人向けツアーを実施し、実施回数の増加や満足度向上につながるよう努める。
②	これまでのPR場所である東京都庁よりも外国人観光客の集客が見込めるPR場所を開拓する。	近隣区でのPR場所を検討し、浅草の「まるごとっぽん」で土日2日間のPRイベントが実施できるよう調整した。	荒川ブランドPRイベントの実施にあたり、より効果的なPRに繋がるよう施設管理者や出展事業者と調整を図る。
③	広報活動を強化すると同時に、各スポットへのヒアリング等を通し、訪問者とスポット双方の満足度向上に努める。	新たな媒体の開拓により広報活動を強化した。また、各スポットのヒアリングの充実に努めた。	各スポットを紹介する冊子の新たな配布先を開拓すると共に、外国人観光客向けスポットの整備及び広報についても検討を進める。

他区の実況	(実施 5 区 未実施 15 区 不明 2 区)
東京の多様性を活かした観光まちづくり推進支援事業活用区：台東区(中小製造業アトリエ化支援事業) その他関連事業実施区：墨田区(すみだモダンブランド認証事業、すみだファクトリーめぐり)、大田区(おたおオープンファクトリー)、江東区(江東ブランド推進事業)、足立区(足立ブランド事業)	

況議(会要質問状) 平成17年2定 産業観光の視点で、姉妹友好都市交流をするべき。

事務事業分析シート（平成30年度）

No1

事務事業コード	06-04-04		戦略プラン	●協働 ○業務 ○財務 ○人事				
事務事業名	観光イベント支援事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	石崎		
			担当者名	大和田	内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（30年度）	01-03-01	川の手荒川まつり事業						
	01-03-02	観光イベント助成						
	01-03-03	隅田川花火大会事業費						
事務事業の種類	○新規事業（○30年度 ○29年度）		○建設事業		●それ以外の継続事業			
開始年度	●昭和 ○平成 62年度		根拠	川の手荒川祭り実行委員会実施事業補助金交付要綱、荒川区観光振興事業補助金交付要綱				
終期設定	○有 ●無 年度		法令等					
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画 ○非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	区民等の開催する観光事業を支援し、区民とともに観光資源を育成する。							
対象者等	区民主体の民間団体 区民、区外の人々及び来訪者							
内容	1 川の手荒川まつり実行委員会補助 28年度(汐入公園)12,340千円、29年度(南千住野球場)12,312千円、30年度(汐入公園)16,425千円 2 観光振興事業補助 29年度9件1,034千円（「まちの駅七福神めぐりウォークラリー」50千円、「秋の七草と鳴く虫の会」50千円、「日暮里富士見坂写真展」50千円、「ハロウィン2017」50千円、「俳句deあらかわ名所づくり冬・春」50千円、「荒川シャルソン」50千円、「東日暮里マップ作成および街歩き」50千円、「駅からハイキング」37千円、「にっぽり電車まつり」647千円） 3 隅田川花火大会実行委員会への負担金 ・26年度150万円（実行委負担金）・27年度150万円（実行委負担金） ・28年度150万円（実行委負担分）・29年度180万円（実行委負担金） ・30年度150万円（実行委負担分）							
経過	○川の手荒川まつり 昭和62年以来、（計5回を除き）毎年4月29日（祝）に実施。17年の実行委員会において開催場所を南千住野球場、東尾久運動場、荒川遊園運動場、汐入公園で毎年開催することをルール化したが、27年度安全面、ブース確保の問題から荒川遊園を除外し、3会場で実施することを決定した。 ○平成23年度 ・「駅からハイキング関連事業補助」経費を産業観光推進事業から組み替え。 ・「シダレザクラ祭り補助金」が公園緑地課に移管。 ○駅からハイキングにおける商店街PRのための補助 21～24年度、27年度、29年度(1団体)：駅からハイキング(JR東日本)(単年度要綱にて助成、29年度より通年度要綱作成)、25、26年度は、JRの実施方法変更のため補助なし。28、29年度(1団体)は商店街連携支援補助を活用し、駅ハイ実施。							
必要性	区民・地域団体等が実施するイベントを支援することで、より多くの集客の機会を創出することが期待出来る。							
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員)							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			27年度	28年度	29年度	30年度見込み		目標値(38年度)
	①	観光事業補助金申請件数	9	9	10	9	13	日暮里駅前広場活用イベント補助を含む
	②	川の手荒川まつり来場者数(千人)	78	55	79	50	103	
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
30年度		31年度						
推進	推進	区民・事業者の自主的活動は、観光振興による地域の活性化を図る上で欠かせないものであることから、今後も関係団体等に対する支援を推進していく。						

予算・決算額等の推移	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額	12,325	14,124	14,095	15,205	18,280	19,082	23,473
決算額(30年度は見込み)	12,076	12,802	12,901	13,903	17,379	18,180	23,473
実績の推移	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事項名(30年度は見込み)							
シダレザクラ祭り参加者(人)	9,200	—	9,000	6,500	9,000	11,000	11,000
事業補助金(日暮里イベント含む)	7	3	9	9	8	10	16
川の手荒川まつり来場者(人)	70,000	70,000	72,000	78,000	55,000	79,000	79,000
川の手荒川まつり参加団体	140	132	137	127	127	131	131

予算・決算の内訳

平成28年度(決算)			平成29年度(決算)			平成30年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
職員手当等	時間外手当(川の手荒川まつり)	220	職員手当等	時間外手当(川の手荒川まつり)	204	職員手当等	時間外手当(川の手荒川まつり)	254
職員手当等	時間外手当(隅田川花火大会)	368	職員手当等	時間外手当(隅田川花火大会)	276	職員手当等	時間外手当(隅田川花火大会)	310
賃金	臨時職員(川の手荒川まつり)	559	賃金	臨時職員(川の手荒川まつり)	578	賃金	臨時職員(川の手荒川まつり)	620
需用費	隅田川花火大会用消耗品	81	需用費	隅田川花火大会用消耗品	94	需用費	隅田川花火大会用消耗品	100
委託料	隅田川花火大会テント等設営費ほか	1,295	委託料	隅田川花火大会テント等設営費ほか	1,810	委託料	隅田川花火大会テント等設営費ほか	2,679
負担金補助等	隅田川花火大会分担金・観光振興補助金ほか	2,515	負担金補助等	隅田川花火大会分担金・観光振興補助金ほか	2,834	負担金補助等	隅田川花火大会分担金・観光振興補助金ほか	3,085
負担金補助等	川の手荒川まつり補助金	12,340	負担金補助等	川の手荒川まつり補助金	12,312	負担金補助等	川の手荒川まつり補助金	16,425

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	28年度	29年度	差額		28年度	29年度	差額	
行政費用	給与関係費	7,824	12,083	4,259	地方税	0	0	0
	物件費	1,936	2,556	620	国庫支出金	0	6,156	6,156
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	14,855	15,146	291	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	6,156	6,156
	賞与・退職給与引当金繰入額	384	640	256	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 24,999	▲ 24,269	730
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	24,999	30,425	5,426	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 24,999	▲ 24,269	730
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 24,999	▲ 24,269	730	

備考 行政費用では、給与関係費を除くと、補助費等が主なものであり、主な内訳としては、川の手荒川まつり補助金として12,311,634円、隅田川花火大会実行委員会負担金として1,800,000円かかっている。行政収入では、地方創生推進交付金として6,155,817円収入があった。

問題点・課題 ①川の手荒川まつりの開催会場については、安全面や会場のキャパシティの面から、27年度に見直しを行い、今後3会場でのローテーション開催としたが、来場者数及び出店団体は増加傾向にあることから、引き続き状況を注視していく必要がある。
②隅田川花火大会については、区内の観覧場所となる汐入地域において、実行委員会として関係機関と調整しさらなる安全対策を万全に図らねばならない。また、臨時ゴミ集積所の増設、地元商店街等と連携したにぎわい創出についての検討も必要である。

問題点・課題の改善策

	平成29年度に取り組む具体的な改善内容	平成29年度に実施した改善内容および評価	平成30年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	29年度はより安全対策に重点を置き、警備員等を増やし実施する。(川の手荒川まつり)	交差点などに警備員を配置し来場者の安全を確保した。	30年度は会場が広域となるため、会場内外の警備員を増員し、安全対策を強化する。(川の手荒川まつり)
②	汐入地域の観覧客の安全対策を優先し、警備員を適所に配置し、地元商店街の活性化に繋がる取組を検討する。(隅田川花火大会)	汐入地域の観覧客の安全を考慮し、警備員を適所に配置した。(隅田川花火大会)	汐入地域を訪れる観覧客の更なる安全を考慮し、29年度よりも警備員を増員して配置する。(隅田川花火大会)
③			

他区の実況	(実施) 0 区	未実施) 22 区	不明) 0 区)
議(会)質(問)状	平成16年1定 沿線商店街と連携した都電乗客サービスの提供と路面電車サミットの開催について 平成14年3定 都電沿線の文化祭における区及び地元商店街の関わり方について 平成17年2定 日暮里・舎人線の開通に合わせて、イベントを開催してはどうか。 平成27年度決特 人が集まる隅田川花火大会を観光振興や商業振興に活用すべきと考えるが区の見解は。 平成27年度予特 観光資源としての富士見坂の活用について		

事務事業分析シート（平成30年度）

No1

事務事業コード		06-04-06		戦略プラン		●協働 ○業務 ○財務 ○人事		
事務事業名		都電荒川線活用事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	石崎	
				担当者名	大和田	内線	461	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（30年度）		01-02-02 都電荒川線活用事業						
事務事業の種類		○新規事業（○30年度 ○29年度）		○建設事業		●それ以外の継続事業		
開始年度		○昭和 ●平成 19年度		根拠				
終期設定		○有 ●無 年度		法令等				
実施基準		○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分		●計画 ○非計画		
行政評価事業体系		分野	Ⅲ	産業革新都市				
		政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
		施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出				
目的	区の観光資源である都電荒川線を活用し、区外からの観光客を呼び込む。区内商店街や都電沿線区（北区、豊島区、新宿区）、東京都（交通局）と連携したイベント等の実施や、特別号の運行により、一層の知名度及びイメージの向上を図る。							
対象者等	区民、区外の人々及び来訪者							
内容	<p>【都電荒川線沿線4区地域活性化協議会事業】（平成24年度に協議会設立）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都電荒川線沿線絵画コンテスト(23、24年度) ・都電荒川線沿線スタンプラリー(25年度～) <p>平成27年実績：8月1日（土）～9月16日（水）に実施、商品応募数1,866人 平成28年実績：8月1日（月）～9月25日（日）に実施、商品応募数1,944人 平成29年実績：8月1日（火）～9月24日（日）に実施、商品応募数1,834人</p> <p>【都電特別号の運行】平成24年～ バラ号(5月)、ハロウィン号(10月)、さくら号(3～4月)、おもいで号(10月)平成26年度 【ラッピング都電の運行】平成27年度：俳句のまちPRラッピング都電(11月～) 【都電句会】 都電DE俳句(29年度：第1回：平成30年1月25日・15名参加、第2回：30年3月16日・15名参加)</p>							
経過	<p>平成19年度 「都電荒川線ウォークラリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都電荒川線をPRするとともに、沿線の魅力を多くの人に伝えるため、北区との共催により実施。 <p>平成23年度 「都電荒川線100周年記念事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒川区主催事業：都電100周年荒川区観光ツアー、都電100周年企画展（ふるさと文化館）など ・記念事業実行委員会主催事業（荒川区、北区、豊島区、新宿区及び都交通局）：都電サミット、都電荒川線沿線絵画コンテスト、花電車の運行、特設HP開設 <p>平成25年度：都電荒川線沿線4区地域活性化協議会による「都電荒川線スタンプラリー」を実施 平成27年度：都電1台に俳句のまちPRラッピングを実施、ラッピング都電を活用した俳句講座を実施 平成28年度：あらかわ遊園水辺フェスタ開催時に都電を活用したイベント(マジックショー)を実施 平成29年度：あらかわ遊園水辺フェスタ開催時に都電を活用したイベント(マジックショー)を実施 平成30年度：俳句のまちPRラッピングのデザイン更新(予定)</p>							
必要性	区の観光資源である都電荒川線を活用したイベント開催や話題づくりにより、区のイメージアップやPRにとどまらず商店街をはじめとした地域の活性化に繋がることが期待出来る。							
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員)							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			27年度	28年度	29年度	30年度見込み		目標値(38年度)
	①	都電荒川線沿線スタンプラリー参加者数(人)	1,866	1,944	1,834	2000	2,800	賞品応募者数
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
30年度		31年度						
継続		継続		沿線3区及び東京都交通局等と連携のうえ、荒川区の観光資源の一つである都電荒川線やあらかわ遊園を活用し、都電荒川線沿線地域全体の活性化を図る。				

予算・決算額等の推移		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額		1,413	502	193	190	216	100	192
決算額(30年度は見込み)		919	74	30	20	150	41	192
実績の推移		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事項名(30年度は見込み)								
都電荒川線沿線ウォークラリー(参加者数)		1,713	—	—	—	—	—	—
都電沿線絵画コンテスト(応募数)		343	—	—	—	—	—	—
都電荒川線沿線スタンプラリー(参加者数)		—	1,377	2,003	1,866	1,944	1,834	2,000
予算・決算の内訳								
平成28年度(決算)			平成29年度(決算)			平成30年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
需用費	スタンプラリー景品ほか	150	需用費	スタンプラリー景品ほか	41	需用費	スタンプラリー景品ほか	192

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目		28年度	29年度	差額	行政収入	勘定科目		28年度	29年度	差額
	給与関係費		2,894	3,027	133		地方税		0	0	0
物件費		150	41	▲109	国庫支出金		0	0	0		
維持補修費		0	0	0	都支出金		0	0	0		
扶助費		0	0	0	分担金及び負担金		0	0	0		
補助費等		0	0	0	使用料及び手数料		0	0	0		
減価償却費		0	0	0	その他		0	0	0		
不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	0	0	行政収入合計(a)		0	0	0		
賞与・退職給与引当金繰入額		154	167	13	行政収支差額(a)-(b)=(c)		▲3,198	▲3,235	▲37		
その他行政費用		0	0	0	金融収支差額(d)		0	0	0		
行政費用合計(b)		3,198	3,235	37	通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲3,198	▲3,235	▲37		
特別費用(g)		0	0	0	特別収入(f)		0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		▲3,198	▲3,235	▲37		

備考 行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としては、都電荒川線PRカードの購入に21,546円、都電荒川線沿線スタンプラリー景品として15,000円かかっている。

問題点・課題 ①イベントにおける都電の活用は充実しているが、都電沿線の活性化については、引続き沿線3区及び交通局と連携し、各駅の観光スポットや沿線情報を掲示し、都電沿線の利便性をアピールしていく必要がある。
②俳句・バラ・あらかわ遊園等沿線の魅力を都電と関連付け、「都電の走るまちあらかわ」のイメージを作り、関係機関とも連携し情報を発信していく必要がある。
③近年増加する外国人観光客に向け、外国人目線でのイベントの実施や外国人観光客に特化したガイドブック等を作成するなど、更なる魅力発信に努めていく必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成29年度に取り組む具体的な改善内容	平成29年度に実施した改善内容および評価	平成30年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	沿線4区連携によるスタンプラリーの実施方法を28年度の結果を踏まえて検討し、さらなる誘客を図る	28年度の実績を踏まえ、沿線4区連携によるスタンプラリーの開催期間を延長し実施した	29年度の実績を踏まえ、沿線3区及び東京都交通局との連携を密にし、既存事業の更なる強化を図る
②	荒川区を走る都電を印象づけるために事業を改善し、沿線の魅力をさらに引き出す方策を検討する	荒川区を走る都電を印象づけるために、現在実施している事業の魅力を最大限引き出す方策を検討した	荒川区を走る都電を印象づけるべく、特殊電車の更なる活用方法について、様々な視点から検討を行う
③	都電を様々な形で活用していくことで、都電沿線地域の活性化を図る	区内各地域の活性化を図るべく、都電の新たな活用方法を検討した	

他区の実況	(実施) 3 区 未実施) 19 区 不明) 0 区) ・都電荒川線沿線4区地域活性化協議会に加入
議(会)質(問)状	平成18年4定 都電を活用し、荒川区の観光振興を図るべきである。 平成24年3定 都電を活用した地域や交通局、沿線4区との連携等。 平成26年度予特 あらかわ遊園を活用して商店街振興に貢献するような取組みは検討しているか。 平成27年度予特 あらかわ遊園と都電を活用したイベントで地域ににぎわいが期待できるが区の認識は。 平成27年度予特 あらかわ遊園と都電は区の観光資源であるが、それらをどのように活用しているか。

事務事業分析シート（平成30年度）

No1

事務事業コード		06-04-08		戦略プラン		<input checked="" type="radio"/> 協働 <input type="radio"/> 業務 <input type="radio"/> 財務 <input type="radio"/> 人事		
事務事業名		水辺空間活用事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	石崎	
				担当者名	本宮	内線	461	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（30年度）		01-02-04 水辺空間活用事業						
事務事業の種類		<input checked="" type="radio"/> 新規事業 （ <input type="radio"/> 30年度 <input type="radio"/> 29年度 ）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度		<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成		26年度		根拠		
終期設定		<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		年度		法令等		
実施基準		<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分		<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画		
行政評価事業体系		分野	Ⅲ	産業革新都市				
		政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
		施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出				
目的	・ 隅田川の水辺空間を活用し、賑わいを創出するためのイベントを継続して実施することにより、区内でも数少ない広々とした水辺空間のある汐入地域などの魅力を発信し、誘客を図る。 ・ 隅田川ルネサンス推進協議会への加入を契機に、引き続き東京都及び隅田川沿川の近隣区、団体等と連携を図り、東京の貴重な水辺空間である隅田川の魅力発信をこれまで以上に推進していく。							
対象者等	区民、区外の人々及び来訪者							
内容	○水辺フェスタの開催について 【会場 あらかわ遊園】(1)平成29年6月25日実施(アンパンマンショーは、雨天のため握手会に変更) (2)内容 ①パフォーマンスイベント②物販(全国連携・地元商店街)③都電マジックショー④区政PRコーナー⑤水辺スタンプラリー(3)来場者数 3,600人 【会場 都立汐入公園】(1)平成29年9月10日実施(2)内容①東京水辺ライン②キッチンカー大集合③パフォーマンスショー④着ぐるみ登場⑤水辺のコンサート(三中)等※入口アーチ・アドバルーンの設定(3)来場者数 6,000人 ○隅田川ルネサンス推進協議会への参加【協議会】産業経済部長、防災都市づくり部長 [隅田川ルネサンス推進協議会について]隅田川ルネサンスは隅田川の賑わいを現代に生まれ変わらせ、新たな水と緑の都市文化を未来につなぐ取り組みとして始められ、東京都と隅田川沿川区や関係諸団体との連携を図るため学識経験者や地元団体、行政関係者等から成る隅田川ルネサンス推進協議会設置。							
経過	平成23年4月 隅田川ルネサンス推進協議会の設立(中央、台東、墨田、江東及び各区の観光協会、学識経験者、東京都が参加) 平成24年度 各種イベントの後援(東京ホテル、隅田川夕日見、舟運フォーラム等) 平成25年度 ①特定テーマの選定 船上サービスの充実、夜間景観のイメージアップ、飲食店の展開 ②隅田川ルネサンスのロゴマークの作成 ③ホームページのリニューアル 平成26年2月 荒川区が協議会に正式参加 平成26年度 社会実験とこれまでのまとめ 汐入水辺フェスタ開催(台風接近により中止とした) 平成27年度 汐入水辺フェスタ開催(9/13)※東京都パラリンピック体験プログラムと同時開催 平成28年度 あらかわ遊園水辺フェスタ(6/5)、汐入水辺フェスタ(9/11)開催 平成29年度 あらかわ遊園水辺フェスタ(6/25)、汐入水辺フェスタ(9/10)開催 平成30年度 あらかわ遊園水辺フェスタ(6/24開催)、汐入水辺フェスタ(9/9開催予定)							
必要性	隅田川の水辺を活用したイベントを継続して実施することで、水辺の賑わいが創出され、区外からの誘客と区民の水辺のまちとしての機運の醸成につながることが期待できる。							
実施方法	(2-一部委託) (直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員)							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			27年度	28年度	29年度	30年度見込み		目標値(38年度)
	①	水辺フェスタ来場者	3,700	13,500	9,600	13,000	18,500	各会場の主催の休日イベント来場者数をもとに算出
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
30年度		31年度						
推進		継続		東京都、隅田川沿川区、関係団体等と連携のうえ、地域資源の一つである隅田川の水辺空間を活用した取組みを継続していく。				

予算・決算額等の推移		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額		-	-	588	777	2,926	4,433	5,538
決算額(30年度は見込み)		-	-	414	663	2,749	3,860	5,538
実績の推移	事項名(30年度は見込み)	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	汐入水辺フェスタ来場者	-	-	-	3700	7,000	6,000	6,000
	あらかわ遊園水辺フェスタ					6,500	3,600	7,000
予算・決算の内訳								
平成28年度(決算)			平成29年度(決算)			平成30年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
需用費	水辺フェスタ関連消耗品	229	需用費	水辺フェスタ関連消耗品	132	需用費	水辺フェスタ関連消耗品	339
役務費	水辺フェスタ開催に伴う保険料	33	役務費	水辺フェスタ開催に伴う保険料	66	役務費	水辺フェスタ開催に伴う保険料	85
委託料	水辺フェスタ会場設営費	2,432	委託料	水辺フェスタ会場設営費	3,607	委託料	水辺フェスタ会場設営費	5,058
使用料等	水辺フェスタ開催に伴う都電使用料	55	使用料等	水辺フェスタ開催に伴う都電使用料	56	使用料等	水辺フェスタ開催に伴う都電使用料	56

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	28年度	29年度	差額		28年度	29年度	差額	
行政費用	給与関係費	4,824	6,055	1,231	地方税	0	0	0
	物件費	2,716	3,794	1,078	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	33	66	33	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	256	334	78	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲7,829	▲10,249	▲2,420
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	7,829	10,249	2,420	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲7,829	▲10,249	▲2,420
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲7,829	▲10,249	▲2,420	

備考 行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としては、あらかわ遊園及び汐入水辺フェスタの会場設営及びイベント運営委託に3,405,456円かかっている。

問題点・課題

- ・水辺空間を活用し、賑わいを創出するためには、庁内他課等と連携の上、魅力あるイベントを継続して実施していくとともに東京都や隅田川沿川の近隣区、関連団体との連携を図る必要がある。
- ・水辺ラインを最大限活用できるよう隅田川の潮位を考慮し、イベント開催時期を決定する必要がある。
- ・吹奏楽の演奏等については、会場が音が響きにくい環境にあるため、川辺の賑わいを効果的に演出できるよう音響の工夫が必要である。

問題点・課題の改善策

	平成29年度に取り組む具体的な改善内容	平成29年度に実施した改善内容および評価	平成30年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	28年度に行ったあらかわ遊園水辺フェスタと汐入水辺フェスタの内容を更に充実して実施する。	汐入水辺フェスタについては、水辺テラスまでエリアを拡大し、内容を充実して実施した。	29年度に実施した内容を更に充実させ、あらかわ遊園及び汐入公園において水辺フェスタを実施する。
②	引き続き庁内他課等と連携し、水辺フェスタを実施する。	28年度に引き続き、他課と連携し水辺フェスタを実施した。	29年度に引き続き、他課等と更なる連携を図り、水辺フェスタを実施する。
③	水辺フェスタ等のイベント開催時における水辺ラインの運行について、関係機関等と調整を図る。	東京都公園協会と連携し、汐入水辺フェスタ開催時に水辺ラインの運行を行った。	汐入水辺フェスタにおいて、より多くの水辺ラインの運行が可能となるよう東京都公園協会と調整を図る。

他区の実況	(実施 4 区 未実施 18 区 不明 0 区) 平成23年4月に中央区、台東区、墨田区、江東区の4区が隅田川ルネサンス推進協議会へ参加
議(会)質(問)状	平成27年度決特 イベント自体は盛況であった。会場へのアプローチ、区外へのPR、イベント内容等については、更なる充実を図るべき。 平成28年度決特 汐入水辺フェスタの目的を鑑みるともっと水に親しんだ内容にするべき。 平成28年度決特 イベント実施の際は、隅田川対岸の墨田区など、他区との連携を図ってはどうか。

事務事業分析シート（平成30年度）

No1

事務事業コード	06-04-09		戦略プラン	<input type="radio"/> 協働 <input type="radio"/> 業務 <input type="radio"/> 財務 <input type="radio"/> 人事				
事務事業名	俳句活用事業		部課名	産業経済部観光振興課		課長名	石崎	
			担当者名	池野		内線	461	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（30年度）	01-05-01	俳句活用事業						
事務事業の種類	<input checked="" type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 30年度 <input type="radio"/> 29年度）			<input type="radio"/> 建設事業 <input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業				
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成		27年度	根拠				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	荒川区俳句のまち宣言に基づき、俳句のまちであることを区内外に向け広くPRする各種事業を実施することで、誘客を促進し、地域の賑わいを創出する。							
対象者等	・来街者及び区民、区外の方々 ・奥の細道サミット参加自治体							
内容	俳句及び奥の細道に所縁の深い区として、「俳句のまちあらかわ」及び「奥の細道矢立初めの地千住あらかわ」を広く内外へPRし、区外からの誘客を促進するとともに、地域の賑わいを創出する。 [30年度関連事業(イベント関連)] ①旅立ちの日記念事業 千住まちあるきツアー(5月18日、募集60名、応募184名、参加54名)②芭蕉の大橋渡り(8月下旬)③フォト俳句コンテスト(10月上旬)④都電DE俳句(12月上旬)⑤ラッピング都電車体フィルムの更新 [30年度関連事業(整備関連)] 該当なし [その他] ①俳句のまちあらかわPR商品開発補助金②俳句のまちあらかわノベルティグッズの購入③奥の細道サミットin大石田(7月14、15日)④奥の細道所縁の自治体の物産展への出店							
経過	荒川区は奥の細道所縁の自治体・団体が加入している「奥の細道サミット」に平成19年度から参加しており、平成27年3月14日に「奥の細道千住あらかわサミット」を開催した。 また、サミット同日には、「荒川区俳句のまち宣言」を発表し、以降様々な俳句文化の振興に取り組んでいる。 [サミット開催状況] 28年度 岐阜県大垣市 29年度 富山県高岡市 30年度 山形県大石田町（予定） [近年実施した主なイベント] 28年度 ラッピング都電、都電DE俳句、千住まちあるきツアー、芭蕉の大橋渡り、句碑建立、PR商品開発補助金、関連自治体への出店、聖火リレー誘致活動 29年度 ラッピング都電、都電DE俳句、千住まちあるきツアー、芭蕉の大橋渡り、フォト俳句コンテスト、PR商品開発補助金、関連自治体への出店							
必要性	俳句のまちあらかわ及び奥の細道矢立初めの地千住あらかわを継続的にPRしていくことで、区内への誘客及び地域の活性化の双方において大きな効果が期待できる。							
実施方法	（ <input checked="" type="radio"/> 2一部委託） （直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			27年度	28年度	29年度	30年度見込み		目標値(38年度)
	①	俳句関連事業数(観光振興課)	9	9	8	9	10	
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
30年度	31年度							
重点的に推進	重点的に推進	区外からの誘客を促進し、地域の活性化を図るため、「俳句のまちあらかわ」及び「奥の細道矢立初めの地あらかわ」を活用した観光振興事業を積極的に推進していく。						

予算・決算額等の推移		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額			-	-	7,102	14,431	13,418	14,724
決算額(30年度は見込み)			-	-	4,875	9,746	11,463	14,724
実績の推移		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事項名(30年度は見込み)								
関連事業実施数(観光振興課)			2(奥の細道事業費)	6(奥の細道事業費)	9	9	8	9
奥の細道サミット加入団体数		-	-	-	38	38	42	42
予算・決算の内訳								
平成28年度(決算)			平成29年度(決算)			平成30年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報償費	サミット関連自治体への出店報償費	225	職員手当等	俳句関連イベント学芸員時間外手当	0	職員手当等	俳句関連イベント学芸員時間外手当	7
旅費	サミット関連自治体への出張旅費	296	報償費	サミット関連自治体への出店報償費	79	報償費	サミット関連自治体への出店報償費	293
需用費	俳句関連イベント消耗品費	1,015	旅費	サミット関連自治体への出張旅費	493	旅費	サミット関連自治体への出張旅費	589
役務費	ラッピング都電広告料	2,317	需用費	俳句関連イベント消耗品費	568	需用費	俳句関連イベント消耗品費	1,082
委託料	俳句イベント運営委託費	2,719	役務費	ラッピング都電広告料	2,033	役務費	ラッピング都電広告料	2,440
備品購入費	句碑の購入	2,808	委託料	俳句イベント運営委託費	8,210	委託料	俳句イベント運営委託費	9,533
負担金補助等	俳句のまちあらかわ商品開発補助金	365	負担金補助等	俳句のまちあらかわ商品開発補助金	80	負担金補助等	俳句のまちあらかわ商品開発補助金	780

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	28年度	29年度	差額		28年度	29年度	差額	
行政費用	給与関係費	9,647	10,596	949	地方税	0	0	0
	物件費	6,347	11,289	4,942	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	1,117	2,646	1,529
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	590	174	▲416	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	1,117	2,646	1,529
	賞与・退職給与引当金繰入額	513	584	71	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲15,980	▲19,997	▲4,017
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	17,097	22,643	5,546	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲15,980	▲19,997	▲4,017
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲15,980	▲19,997	▲4,017	

備考 行政費用としては、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としては、フォト俳句コンテスト実施に係る運営・広告掲載委託費として5,292,000円かかっている。行政収入では「東京の多様性を活かした観光まちづくり推進事業補助金」として2,646,000円の収入がある。

問題点・課題
・俳句文化及び奥の細道を活用した区のPRを行うためには、特定の地域だけでなく、区内全域へ「俳句のまちあらかわ」及び「奥の細道矢立初めの地」を広めることが求められる。
・俳句文化によるまちの魅力を発信し、誘客促進を行うため、観光関係団体・文化団体や地域文化スポーツ部、教育委員会など関係部署と更なる連携を図り、PRや事業企画等を進めていく必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成29年度に取り組む具体的な改善内容	平成29年度に実施した改善内容および評価	平成30年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	句碑や芭蕉像などの「俳句のまちあらかわ」のシンボルを効果的に活用し、各種俳句関連事業を実施していく	まちあるきの実施や関連パンフレットの作成時にシンボルを活用し、参加者に対し「俳句のまちあらかわ」のPRを行った	句碑や芭蕉像などの「俳句のまちあらかわ」のシンボルを効果的に活用し、各種俳句関連事業を実施していく
②	庁内関係部署や地元商店街等と連携し、俳句を活用した取組を継続して実施していく	関連事業を商店街の事業と同日開催としたほか、区内業者が俳句に関連した商品開発を行う際に経費の一部を補助した	庁内関係部署や地元商店街等と連携し、俳句を活用した取組を継続して実施していく
③	既存の観光資源に俳句を絡め、効果的に情報を発信していく	都電荒川線にPRラッピングを施した車両を運行し、さらに、この車両を活用したイベントを実施した	既存の観光資源に俳句を絡め、効果的に情報を発信していく

他区の実況 (実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区)
「奥の細道サミット」加入団体は、23区では当区のほか、江東区、足立区の2区。

議決(要旨) 平成25年1定 「奥の細道旅立ちの地」という重要な地域資源を活かした観光振興を推進すべき
平成28年度2月会議 「俳句のまちあらかわ」を区内外に広く周知するための取組を実施すべき
平成28年度予特 新たに建立する句碑を他の俳句関連スポットとともに観光資源として活用すべき

事務事業分析シート（平成30年度）

No1

事務事業コード	06-04-10		戦略プラン	<input checked="" type="radio"/> 協働 <input type="radio"/> 業務 <input type="radio"/> 財務 <input type="radio"/> 人事				
事務事業名	あらかわの伝統野菜PR事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	石崎		
			担当者名	本宮	内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（30年度）	01-01-03	あらかわの伝統野菜PR事業						
事務事業の種類	<input checked="" type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 30年度 <input type="radio"/> 29年度）			<input type="radio"/> 建設事業 <input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業				
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成		24年度	根拠				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準			計画区分	<input type="radio"/> 計画 <input checked="" type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	地域の活性化や区民の郷土愛の向上を目指して、かつて江戸時代に荒川区で生産されていた三河島菜など荒川区の地名を冠した野菜を復活させる取り組みを行い、江戸東京野菜として区内外に広くPRを行う。							
対象者等	区内外の住民・観光客、区内協力店舗等							
内容	①都立農産高校との連携（平成24年度～） ・平成24年に園芸部にて三河島菜と汐入大根の試験栽培を開始（汐入大根は不作）。翌年より授業として三河島菜を栽培。栽培したものは無償提供頂き区事業で活用 ・三河島菜を「にっぽりマルシェ」にて、生徒が販売 ・これまでの三河島菜の研究成果を「にっぽりマルシェ」にてブース展示、来場者に説明（平成27年度～） ②区役所内レストランさくらでの三河島菜フェアの開催（平成25年度～） ・三河島菜を使用した定食を日替わりで1週間提供 ③三河島菜イメージキャラクターの作成及びPRグッズの作成（26年度～） ・クリアファイル、トートバッグ							
経過	・平成18年度、荒川ふるさと文化館にて、荒川のブランド野菜をテーマにした「あらかわのお野菜 都市とお野菜」を開催。尾久宮前小学校栄養士が、絶えてしまったとされる荒川区ゆかりの伝統野菜が現存しないか江戸東京・伝統野菜研究会の大竹道茂氏に調査を依頼したところ、仙台で栽培されていた「仙台芭蕉菜」が、その子孫種であることが判明。大竹氏が小平市の農家へ種を持ち込み栽培。 ・平成23年 7月 「青茎三河島菜」としてJA東京中央会によって江戸東京野菜に選定。 ・平成24年10月 都立農産高校と連携し三河島菜及び汐入大根の試験栽培を開始 ・平成25年 9月～ 授業の一環で三河島菜の栽培を開始（毎年9月頃） ・平成25年12月～ 都立農産高校の生徒が「にっぽりマルシェ」で三河島菜を販売 ・平成26年 1月～ 区役所内「レストランさくら」にて1週間三河島菜メニューフェアを開催 ・平成26年 3月～ 都立農産高校へ区から感謝状贈呈（毎年3月）							
必要性	・新たな観光資源の創出は、更なる誘客の促進に必要不可欠である。 ・荒川区独自の文化を観光資源に活用することは、区の魅力をPRするために大切である。							
実施方法	（ <input type="radio"/> 2一部委託） （直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			27年度	28年度	29年度	30年度見込み		目標値(38年度)
	①	三河島菜フェア提供食数（合計）	718	502	453	700	700	レストランさくら実施（5日間合計）
	②	三河島菜販売数（セット）	200	80	84	300	300	にっぽりマルシェでの販売
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
30年度		31年度						
継続		継続		三河島菜の認知度を高め、区民の郷土愛の醸成や区の魅力向上を図るため、今後もこれまでの取組を継続していく。				

予算・決算額等の推移		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額			-	-	447	377	410	459
決算額(30年度は見込み)			-	-	239	278	248	459
実績の推移		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事項名(30年度は見込み)								
三河島菜フェア提供食数(合計)			482	452	718	502	453	700
三河島菜販売数(セット)			173	329	200	80	84	300
予算・決算の内訳								
平成28年度(決算)			平成29年度(決算)			平成30年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報償費	勉強会講師謝礼	18	報償費	勉強会講師謝礼	18	報償費	勉強会講師謝礼	69
需用費	あらかわの伝統野菜PR用消耗品	202	需用費	あらかわの伝統野菜PR用消耗品	136	需用費	あらかわの伝統野菜PR用消耗品	270
委託料	マルシェ展示用パネル設営	58	委託料	マルシェ展示用パネル設営	94	委託料	マルシェ展示用パネル設営	120

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	28年度	29年度	差額		28年度	29年度	差額	
行政費用	給与関係費	2,894	3,027	133	地方税	0	0	0
	物件費	260	248	▲12	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	18	0	▲18	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	154	167	13	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲3,326	▲3,442	▲116
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	3,326	3,442	116	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲3,326	▲3,442	▲116
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲3,326	▲3,442	▲116	

備考 給与関係費を除くと、行政費用では、物件費が主なものであり、主な内訳としては、イベント出展におけるパネル展示用つたての設置委託に94,176円、三河島菜PR用クリアファイルの作成に75,114円かかっている。

問題点・課題

- ・荒川の伝統野菜として区民に認知され、問い合わせも増えつつあるが、生産量が限られるため区民が実際に食したり、直接触れる機会は少ない。
- ・荒川区内で生産されていないため、区外の農家など、連携先の開拓が必要である。

問題点・課題の改善策			
	平成29年度に取り組む具体的な改善内容	平成29年度に実施した改善内容および評価	平成30年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	29年度以降も「復活！あらかわの伝統野菜」だよりによる情報発信を継続して行っていく。	29年度も「復活！あらかわの伝統野菜」だよりによる情報発信を継続して行った。	30年度以降も「復活！あらかわの伝統野菜」だよりによる情報発信を継続して行っていく。
②	29年度以降もイベント等で各所と連携・協力しながら区民が三河島菜に直接触れたり食したりできる方法について検討する。	にっぽりマルシェ及び区役所地下食堂での三河島菜フェアで、都立農産高校及び食堂運営事業者と協力し三河島菜の提供を行った。	30年度以降も各所と連携・協力しながら三河島菜をPRする機会を設ける。また、広報の仕方についてもより工夫を行う。
③	新たな連携先の開拓について検討していく。	都立農産高校の他、区外の農家との連携を検討した。	新たな連携先の開拓について積極的に検討していく。
他区の実況	(実施) 0 区	未実施) 22 区	不明) 0 区)
議況(要旨)問状	平成28年度予特 三河島菜の種をもっと広く一般の方が入手出来るようにしてはどうか。 平成28年度予特 尾久宮前小で育てている三河島菜の鉢植えを区役所に展示し、PRしてはどうか。		

事務事業分析シート（平成30年度）

No1

事務事業コード		06-04-11		戦略プラン		●協働 ○業務 ○財務 ○人事	
事務事業名		太田道灌魅力発信事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	石崎
				担当者名	本宮	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（30年度）		01-02-05 太田道灌活用事業					
事務事業の種類		●新規事業（●30年度 ○29年度）		○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度		○昭和 ●平成 30年度		根拠			
終期設定		○有 ●無 年度		法令等			
実施基準		○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分		○計画 ●非計画	
行政評価事業体系		分野	Ⅲ	産業革新都市			
		政策	06	人が集う魅力あるまちの形成			
		施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出			
目的	日暮里地域には、勇壮な太田道灌の騎馬像や道灌山、道灌丘碑といった太田道灌に関する観光資源が点在していることから、太田道灌に所縁のある史跡などを案内するまちあるきツアーの他、地元商店会が日暮里駅前イベント広場で開催しているにっぽりマルシェと連携し、太田道灌に関する物販イベントを行うことで太田道灌の魅力を発信するとともに、にぎわいを創出し、地域経済の活性化を図る。						
対象者等	区内外の住民・観光客、区内外協力店舗等						
内容	○日暮里道灌まつり 平成30年度(予定) (1) 開催時期：平成30年10月20日（土）、21日（日） ※にっぽりマルシェと同時開催 (2) 会場：日暮里駅前イベント広場 (3) 内容：ステージイベント、関連史跡などをめぐるまちあるきツアー、太田道灌に所縁のある自治体による物販・観光PR、太田道灌に関連する店舗による物販						
経過	1 太田道灌 室町時代後期から戦国初期への転換期に登場した文武兼備の武将。江戸城を築城したとされ、城主であったことから、東京の原点を築いた人物として親しまれている。 2 太田道灌に関する史跡など 道灌山(西日暮里四丁目の高台)、道灌丘碑(西日暮里三丁目の本行寺)、石浜城(南千住三丁目、山吹の塚(荒川七丁目の泊船軒)、太田道灌騎馬像「回天一枝」及び「山吹の花一枝」像(日暮里駅前) 3 太田道灌のPR (1) 区HPでの紹介(荒川ゆうネットアーカイブにて太田道灌像について紹介) (2) 観光パンフレットへの掲載 おいでよ!あらかわ(区外向けパンフレット)・荒川区観光ボランティアガイドマップ・日暮里舎人ライナー・都電沿線まちあるきマップ (3) 日暮里観光案内所でのチラシ配布						
必要性	・荒川区の歴史文化を観光資源に活用することにより、区のにぎわいを創出し、地域経済の活性化するために必要である。						
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員)						
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明
			27年度	28年度	29年度	30年度見込み	
	①	(仮称)日暮里太田道灌まつり来場者数				2,500	2,500
	②						
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
30年度		31年度					
推進		推進		荒川区と太田道灌のつながりの認知度を高め、区民の郷土愛の醸成や区の魅力向上を図るため、取組を推進していく。			

予算・決算額等の推移		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額							-	2,547
決算額(30年度は見込み)							-	2,547
実績の推移		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実績の推移	事項名(30年度は見込み)							
	(仮称)日暮里太田道灌まつり(人)							2,500
予算・決算の内訳								
平成28年度(決算)			平成29年度(決算)			平成30年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
						需用費	イベント消耗品	150
						役員費	まちあるき参加者保険料	1
						委託料	イベント会場設営及びイベント運営委託ほか	2,396

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目			勘定科目	勘定科目			
	28年度	29年度	差額		28年度	29年度	差額	
行政費用	給与関係費		0	行政収入	地方税			
	物件費				国庫支出金			
	維持補修費				都支出金			
	扶助費				分担金及び負担金			
	補助費等				使用料及び手数料			
	減価償却費				その他			
	不納欠損・貸倒引当金繰入額				行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額		0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	0	0	0
	その他行政費用				金融収支差額(d)			
	行政費用合計(b)	0	0		0	通常収支差額(c)+(d)=(e)	0	0
特別費用(g)				特別収入(f)				
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	0	0	0	

備考

・荒川区と太田道灌のつながりを更にPRする方法を検討する必要がある。また、関連自治体と交流を深め、連携していかななくてはならない。

問題点・課題の改善策

	平成29年度に取り組む具体的な改善内容	平成29年度に実施した改善内容および評価	平成30年度以降に取り組む具体的な改善内容
①			区内外の方々に荒川区と太田道灌のつながりを知ってもらえるようPR方法を工夫する。
②			
③			

他区の実況

(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)

議会議決(要旨)

平成28年度予特 太田道灌を活用し、観光客誘致のためのPRを行うべき
 平成28年度予特 日暮里駅前イベント広場に道灌広場や山吹広場等の愛称名をつけることで、誘客を図るべき
 平成29年度11月会議 太田道灌をテーマとし、ゆかりのある自治体等と連携したイベントを開催するなど、新たな誘客策に取り組むべき
 平成29年度予特 太田道灌を軸とした交流を作り出し、関わりのある自治体と広く連携を進めるべき